

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	不静定構造力学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	2年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/選択科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・「たわみ角法」を用いて簡単な不静定ラーメンの応力算定ができる。(C1) ・ラーメン架構の応力分布にみられる特徴を理解できる。(C1) ・保有水平耐力の算定ができる。(C1) 						
日程と内容	9/15 導入講義 9/29 不静定ラーメンの応力算定-1 10/3 不静定ラーメンの応力算定-2 10/6 不静定ラーメンの応力算定-3 10/13 不静定ラーメンの応力算定-4 10/20 不静定ラーメンの応力算定-5 10/27 不静定ラーメンの応力算定-6 11/10 ラーメン架構の応力分布-1 11/17 ラーメン架構の応力分布-2 11/24 ラーメン架構の応力分布-3 12/1 保有耐力の算定-1 12/8 保有耐力の算定-2 12/15 保有耐力の算定-3 12/22 保有耐力の算定-4 1/12 定期試験 1/19 まとめ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験	0%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%	計	100%			
	演習	20%					
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・「たわみ角法」を用いて簡単な不静定ラーメンの応力算定ができる。(C1):不十分である。 ・ラーメン架構の応力分布にみられる特徴を理解できる。(C1):不十分である。 ・保有水平耐力の算定ができる。(C1):不十分である。 						
反省点	建築コースの学生にとっては選択科目であり、履修者が少ない。工学的学問である構造力学への関心を高める必要がある。秀0名、優2名、良2名、可3名であり、理解しているとは言いがたい。これら学生の半分は構造関係に進むことを希望していることから、再度教育する必要がある。						
来年度の計画	来年度も履修者は少ないと思われることから、履修学生が納得するまで、時間をかけて教えたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は、8.4点であった。比較的高得点であったが、学生の授業後の理解度を考慮すると、もっと学生の様子を見ながら授業を進めるべきであったと反省している。						
履修登録者数	7名	定期試験 受験者数	7名	合格者数	7名	合格率	100%